課題番号20

施設園芸の省力化技術の推進

対象：JA新すながわきゅうり生産者(26戸)

１　活動の背景

現　状	問　題	課　題
・水稲の規模拡大 ・農業者の高齢化 ・労働力の減少	・将来的な施設園芸離れ ・省力化技術の導入が進んでいない	・省力化技術導入 ・導入後の栽培管理の確立

省力化栽培の技術向上、導入の意識を醸成し、施設園芸産地の維持を図る！

目標：モデル農家　0戸 → 2戸

２　活動の経過

▸ R7年　２戸のきゅうり生産者が統合環境制御『Arsprout』（サカタのたね）を導入
隔離床つるおろし養液栽培（日射比例式）での作付けがスタート

● 導入後の栽培管理確立への支援

▸ 栽培管理について生産者と検討
・SNSを活用した情報共有、給液管理を見える化
・時間ごとの吸水量を調査

▸ 花・野菜技術センターの研究員から制御機器の設定方法についてレクチャー

▸ 研究員との現地巡回による栽培管理の指導

▸ 現地意見交換でお互いの情報を共有

▸ 他産地事例を視察

普及センター

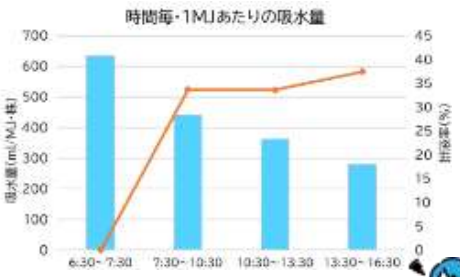

図　時間ごとの吸水量

農業者Ａ

● 地域への技術波及と意識の醸成

▸ ＪＡ青年部も交えた情報交換（4/2, 7/9, 8/13）

▸ きゅうり生産部会への取り組みの報告（3月下旬予定）

３　成果の具体的内容

● 省力化栽培技術の向上

▶ データ活用による栽培管理の適正化推進

排液率30%確保するためには
早朝のかん水が大事

⇨ 日射比例式とタイマー式のかん水の併用

図　給液ＥＣ、排液ＥＣ、排液率

排液率30%を目指した
適正な水管理の実施

草勢に合った給肥管理

▶ 省力化の実現

表　手動と自動管理での作業時間

	手動	自動
換気	16分/10a･日	0分/10a･日
かん水	33～50分/10a･日	0分/10a･日

⇨ 自動換気・自動かん水の導入により
１日50～66分/10aの短縮になる

「雨が降っても急いでハウスの
側窓を閉める必要がない」

「整枝作業に時間をかけられた」

「休みを確保できた」

ゆとりの創出

● 収量・品質の向上

R7結果

農業者Ａ　**目標の２０t/１０aを達成！**
（北海道 きゅうり半促成長期どり基準収量 17t/10a）

農業者Ｂ　**Ａ品率 地域平均対比２２９%！**

● 省力化栽培への意識向上

ＪＡ青年部の生産者から「次年度はつるおろし栽培に取り組みたい！」という声があり、1年間の取り組みの中で意識の向上が見られている。

４　今後の課題と対応

統合環境制御を導入している２戸のさらなる栽培管理技術向上を図る。また、地域の農業者にもその取り組みを見てもらい、導入に向けた意識の醸成を図る。

【作成者　中空知支所　主査　鴨下　孝子・専門普及指導員　平石 千江】